

# 謹賀新年

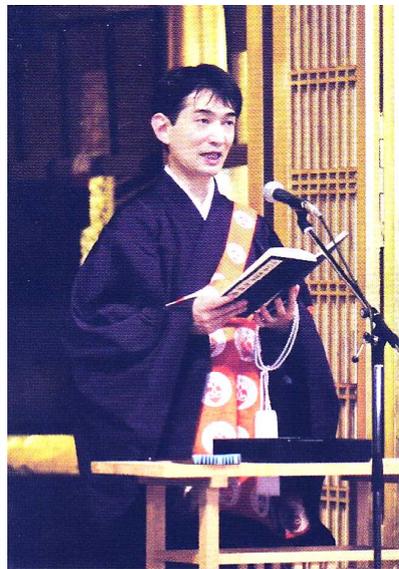
おてら



## 伝灯奉告法要

平成26年6月6日に第25代門主となられた専如門主が、浄土真宗のみ教え（法灯）を継承されたことを阿弥陀如来と親鸞聖人の御前に奉告され、そのみ教えが広く伝わることを願い営む「伝灯奉告法要」が、昨年10月1日から始まり、全国各地から多くの人々が参拝している。初日には、各界、国内外からの来賓を含む約2500人が参拝。御影堂での法要後、ご門主が「念仏者の生き方」と題されたご親教を述べられた。

法要は、今年5月31日まで10期80日間にわたり修行される。境内では、伝灯奉告記念参拝式、仏前結婚式や初参式（子供の誕生を喜び仏様にご奉告する式）をはじめ、梵鐘体験、国宝書院・飛雲閣の特別公開や飛雲閣での慶讃茶席など、多彩な協賛行事が執り行われる。



ご親教される専如門主



# 念仏者の生き方

門主 大谷 光淳

仏教では、この世界と私達のありのままの姿を「諸行無常」(この世界のすべての物事は一瞬もとどまることをなく移り変わって行く)と「縁起」(その一瞬ごとにすべての物事は原因や条件が互いに関わり合って存在している)という言葉で表します。したがって、そのような世界のあり方の中には、固定した変化しない私というものは存在しません。

しかし、私達はこの真実に気付かず、自分というものを固定した実体と考え、欲望の赴くままに自分にとって損か得か、好きか嫌いかなど、常に自己中心の心で物事を捉えています。その結果、自分の思い通りにならないことで悩み苦しんだり、争いを起こしたりして、苦悩の人生から一歩たりとも自由になれないのです。このように真実に背いた自己中心性を仏教では無明煩惱といい、この煩惱が私達を迷いの世界に繋ぎ止める原因であります。

私達は、迷いの世界から抜け出せない私をそのままの姿で救うとの阿弥陀如来のご本願を聞かせて頂くことで、自分本位にしか生きられない無明の存在であることに気付かされ、できる限り身を慎み、言葉を慎んで、少しずつでも煩惱を克服する生き方へと作り変えられていくのです。それは例えば、自分自身のあり方としては、欲を少なくして足ることを知る「少欲知足」であり、他者に対しては、穏やかな顔と優しい言葉で接する「和顔愛語」という生き方です。たとえ、それらが仏様の真似事と言われようとも、ありのままの真実に教え導かれて、そのように志して生きる人間に育てられるのです。仏法を依りどころとして生きていくことで、私達は他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏様のお心になう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間になるのです。

国の内外、あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しく、分かりやすく伝え、そのお心になうように私達一人ひとりが行動することにより、自他共に心豊かに生きていくことのできる社会の実現に努めたいと思います。世界の幸せのため、共に確かな歩みを進めてまいりましょう。

(紙面上一部抜粋)

# 少欲知足

住職 蒲原 霊英

あけましておめでとうございます  
上記の専如門主のご親教の中で、「少欲知足」と「和顔愛語」という二つの言葉があります。今号では、まず「少欲知足」について述べたいと思います。

この言葉は、浄土真宗の根本経典である「仏説無量寿経」にあります。同じくこのお経の中で、「田あれば田に憂へ、宅あれば宅に憂ふ」「田なければ、また憂へて田あらんことを欲ふ」「有無同然」(田畑や家が無ければそれらを求めて苦しみ、有れば管理や維持のためにまた苦しむ。その他もみな同じである)と説かれます。金、財産、名誉、地位、家族などこれらが無ければ無いで苦しみ、有れば有ったで苦しんだり、さらにもっともっとと求めて苦しんだり。私達の欲望には際限がなく、人間として生きていく以上は欲という煩惱を持ち続けます。いくら年を取って欲が無くなってきたと言っても、長生きしたいという欲は有るのではないでしょうか。ちなみに、ライオンはお腹が満たされている時に餌となる動物が通っても襲いません。腹八分目が体に良いと言いながら腹いっぱい食べ、別腹と言ってデザートを食べるのは人間だけです。仏様は、そのようなことを見通されて、「少欲知足」(欲少なくして足るを知る)で、「欲を無くして」までとはおつしやられていないのです。しかし、そんな仏様のお心に甘えて、欲たかりのままでもいいやと居直るのではなく、少しでもわが身をふり返り生活を見直すことが大切です。

西遊記の三蔵法師で有名な玄奘は、「知足」をさらに踏み込んで「喜足」(足るを喜ぶ)と訳しました。すでに得られたものに満足し、今ここにいのちを頂いていることを喜ぶ。あるがままの私を受け容れて、ありがたいと感謝する。「喜足少欲」。逆に、満足を知り、喜び、感謝することによって、欲望が減っていくとも言えましょう。

「分かっちゃいるけどやめられない」、分かっているもなかなか実践するのは難しいことです。新年にあたり、この「少欲知足」を今年の抱負とされてはいかがですか。合掌